

2011年事業計画

1. 事業実施の方針

エチオピアでの緑化や水資源開発に関する事業を推進するとともに、国内においてはその広報活動、募金活動、環境に関わるキャンペーン事業、環境ネットワーク事業、およびそれらに付随する活動を行う。

2. 事業計画

①海外事業／エチオピア連邦民主共和国での緑化事業や水資源開発事業

事業名 予算(ブル)	事業内容	実施日時	実施場所	その他(重点目標等)
衛生プログラム (40,000)	地区に清掃グループを組織し、研修を施しながら、地域参加型でゴミ処理や汚水処理に当たる。	通年	カバレ 01・02	カバレ 01 内で実施してきた地域参加型の衛生プログラムをカバレ 02 でも実施したい。継続的な管理が重要となるため、現地衛生局との連携を強化する。
堆肥生産 (40,000)	衛生プログラムとも連動させるかたちで、有機ゴミから堆肥を生産する。	通年	カバレ 01・02、各農園、植林サイト周辺	ラリベラ市内のホテル・レストランと提携し、生ごみの収集を行う。近接の植林サイトで堆肥化し、植樹の際の土壌改良に活用すると同時に、地域のごみの減量につなげる。同様に遠隔地の植林サイトや苗畑にもそれぞれ堆肥生産のためのコンポストホールを用意し、各々堆肥生産を行う。
苗木生産 (157,000)	ラリベラ市、ラスタ郡に整備した 3 つの農園にて、800,000 本の苗木を生産する。	通年	カンカニ、シマノ、シュムシャハ	地域参加型植林のために、村人の収入向上につながる果樹、建材などの樹種を含め、苗木生産を行う。また、対前年で 6 割増しの生産能力拡大を見据え、苗床の拡張に注力する。また、活着率の向上のため、ポット苗の生産拡大を目指す。それぞれの農園での苗木の生産本数は、シマノ 50 万本、シュムシャハ 25 万本、カンカニ 8 万本を目指している。
大規模植林 (360,000)	ラリベラ市、ラスタ郡に確保した植林地に、大規模な植林、育林を行う。	植林：6 月～7 月 育林：通年	ラリベラ市内、アビセグ、サルズナ、ブルバラ、ガラソート、デゴサッチ、マルカート他	3年で150万本の植林を達成すべくスタートしたが、昨年は目標の50万本植林を達成できた。今年はそれから6割増しの80万本の植林をめざしており、当面そのための新植林地の確保が急がれる。既に確保できた主な新植林サイトでの予定植林本数は： アビセグ(新) 2万3千本 シュムシャハ(新) 7万5千本 デゴサッチ 2万本 マルカート 2万5千本 デブレローザ 3万4千本 ガラソート 1万5千本 カンカニ(新) 1万5千本 ブルバラ 5万本 サルズナ(新) 2万5千本である。

地域参加型植林 (100,000)	地域参加型のマイクロクレジット植林を行う。参加者への定期的な支援と研修を実施。	植林：6月～7月 育林：通年	ラリベラ市内	カウンターパートとして、協同組合（コーポラティブ）と連携し、クレジット受給者に対する日常的な指導・監督を委託する。管理者に対する教育、トレーニングを行うと同時に、参加者への植林後の支援体制をきめ細かく整備する。
	オーナーシップ意識を持たせた緑化事業としてグリーンキャンペーンを行う。	植林：6月～7月 育林：通年	ラリベラ周辺	2010年にはラリベラ市内を中心に5つのカバレで合計4,500本の苗木が植林された。2011年はホテル・レストランなどの商業施設の参加を一層促すと共に、アグロフォレストリーの手法を併用し、農民に対して農地への植林をプロモートする。また、専門の拡張員を雇い、主に市内の一般家庭へのアプローチも強化する。
学校での環境教育 (20,000)	小学校で環境クラブの活動を実施する。 (環境クラブ組織⇒畑作り⇒野菜作り⇒木の苗作り⇒植林⇒堆肥作り⇒植林後の管理)	通年	ラリベラ小学校 ゲテルゲ小学校 ナクテラ小学校	環境問題の種まきは子供たちから。木の役割を理解してもらい、その育て方を環境クラブの子供たちに指導していく。環境教育の教材を充実させ、プロジェクターを使い、インパクトの強い啓蒙活動を行う。
	小学校で環境コンテストを実施する。 (絵画、詩、作文等)	5～7月	ラリベラ小学校 ゲテルゲ小学校 ナクテラ小学校	環境意識を高めることを目的に、3つの小学校で絵画の部、詩・作文の部でコンテストを行う。優秀作の表彰など継続実施。
	小学生を対象に自然観察会を行う。	3～5月	ラリベラ小学校 ゲテルゲ小学校 ナクテラ小学校	環境クラブの子供たちを対象に緑化や衛生問題の現場に触れさせる見学会を継続実施。
専門家派遣、職員研修 (40,000)	外部からの専門家の招聘と、職員のスキルアップのための研修を行う	通年	ラリベラ市内、ラスタ郡内	エチオピア国内の専門家を招聘し、現地に適合した植林、育林を実施する。また、事業目的に沿った、職員の能力向上のための研修を行う。さらに、植林手法をより科学的な観点から開発・運用するスキルを身に付けることを目指したい。
広報・プロモーション活動 (0.00)	日本からのスタディツアーを受け入れる。	7月22日～29日 ／通年	ラリベラとその周辺	フー太郎の森基金の植林ツアーのみならず、大学のスタディツアー、ラリベラ観光の訪問者などを時間の許す限り受け入れていく。
	サッカー教室開催のための準備を進める。	随時	ラリベラ、アジスアベバ	2012年1月開催予定のサッカー大会「ベガルタカップ」を開催するための諸手続きを行う。12年はラスタ郡のチームの参加により、拡大開催を検討したい。

②国内事業／広報活動、募金活動、環境に関わるキャンペーン事業、環境ネットワーク事業

事業名 予算(円)	事業内容	実施日 時	実施場所	その他（重点目標等）
東日本大震災復興支援事業 (500,000)	相馬市や周辺市町村の被災者支援に関する活動を行う。	3 ～ 12 月	相馬市や周辺市町村	被災した会員のサポートをしていくと同時に、避難所での炊き出しや物資配布を行う。仮設入居者に向けた自立支援物資の配布会（5回）、その他の被災者向け配布会を行う。相馬市や周辺市町村の被災地の復興支援のための様々な活動を行うとともに、会員を中心としたボランティアの受け入れや手配など中間支援的な活動も行う。
サッカー関連事業 (50,000)	ユアテックスタジアム出店	9 ～ 12 月	仙台市	4月から毎月1回、ベガルタ仙台のホームユアテックスタジアムでのコーヒー販売を予定していたが、震災で延期に。夏ごろから出店を始める。
(50,000)	相馬市でのサッカー教室	未定	相馬市	昨年に引き続き、相馬サッカー協会の子供たちにベガルタ仙台のコーチのサッカー教室を開催する。特に被災した地域の子供たちの参加を促す。ボールを全て流された磯部中学校と被災地の中村第二中学校にボール100個を渡した。
(300,000)	ベガルタ仙台のコーチ派遣とトーナメント戦	1月	事務局、エチオピア事務所など	1月6～14日、ベガルタのコーチ2名、関係者4名、TVクルー3名が現地入りしサッカー教室4回、トーナメント戦観戦、エチオピアのクラブチーム訪問などを行う。4年後の世界カップの時に開くタイムカプセルも埋められた。来年以降は毎年ベガルタ杯トーナメント戦とTシャツ制作を行い、2年に1度コーチを派遣してのサッカー教室を行う。
(50,000)	他団体との連携	随時	仙台など	草の根支援事業だけではなく、サッカー関連事業を中心にJICA東北との連携を強める。
現地の自立に向けたプログラム (100,000)	村落開発事業のプランニング	通年	事務局	現地の自立のため、世界遺産の観光客を呼び込む、コットン工房と加工食品製造・販売、カフェをベースにした村落開発。ここからの収益により、現地が自ら植林事業を継続していけるようなシステムづくりを考える。また日本で多くの人に関わってもらいながら事業を形作っていくための工夫をする。
(350,000)	商品開発	通年	事務局、東京など	エチオピアの食材で作る加工食品の開発。日本女子大食学科に食材を提供する。ホームページなどで加工食品の公募も行う。
(200,000)	日本女子大学との連携	通年	事務局、東京など	家政学部は村落開発を構成していく重要な素材を有していることから、専門家とアイデアを共有していく。また学生たちが海外での援助活動にゼロベースから参加することによって、国際人への第1歩になることを期待する。
バキュームカー贈呈 (100,000)	ラリベラ市へのバキュームカー贈呈	通年	事務局、エチオピア事務所など	ラリベラにトイレは各所にできたが、尿尿を汲み取るバキュームカーが無く、トイレが使えない状態に陥っている。昨年と今年の全国キャンペーンの支援金を合わせ、ラリベラ市にバキュームカーを寄贈する予定だったが、来年に延期し、調達方法を現地で検討する。
専門家派遣 (450,000)	果樹専門家のラリベラ派遣	11月	福島県果樹試験場、事務局、エチオピア事務所	将来、ラリベラでの加工食品づくりのために、ラリベラ周辺では果樹の植林も進めているが、果樹は普通の植林とまったく違った管理がなされていることから、日本から専門家を派遣して現地で技術指導を行う。

支部活動 (50,000)	支部の活動の活性化	通年	全国 17 ヶ所	支部独自に活動を展開してもらうために、名刺、パネルやチラシを無料で送付。グッズは支部の割引価格で提供する。「支部活動マニュアル」のリニューアルをして、取り組みやすいメニューを増やす。
地域に根差した活動と組織作り (20,000)	ボランティアスタッフの活動整備と地域での活動	通年	相馬市ならびに東北	東北での知名度を上げ地元を支えられる団体になることを目指す。ボランティアスタッフの参加を呼び掛けると同時に、ボランティアスタッフが自由に活動できる機会を提供していく。
理事会の活性化 (50,000)	理事会の活性化	通年	理事会、事務局	各理事に担当の仕事を受け持ってもらい、自由に能動的に動いてもらえるよう工夫する。
認定 N P O 法人化 (50,000)	認定 N P O 法の研究	通年	事務局	認定 N P O 法が改定されたことから、認可を取るメリット・デメリットを研究する。
資金調達システムの改善 (100,000)	会員・記念樹キャンペーン	通年	事務局、支部など	あらゆる機会に新規会員の獲得に努めるとともに、会員の継続と会費自動払い込みへの移行をお願いする。また引き落とし会員への礼状の検討。記念樹(1本 2,000 円)は一般の方も参加しやすいので、新しいチラシを製作し、拡大のための工夫をする。
(100,000)	会員アンケート	11 月	事務局	フー太郎を支援をすることに喜びを感じてもらうにはどうすべきか。支援していただくだけでなく、何かつながっていることにメリットを感じてもらうにはどうあるべきか。事業への提案など、会員アンケートを実施して、会員の考えを汲み取りながら事業に反映していく。
(30,000)	企業との協力関係を推進する	通年	事務局	コーチ派遣やバキュームカー贈呈など、スポンサーが取り組みやすい事業を提案して寄付や物資などの提供をお願いする。
(50,000)	助成金申請	随時	事務局	09 年 10 月からスタートした J I C A 草の根技術協力事業の 4 半期ごとの会計処理を円滑に進めると同時に、「自立に向けた事業」のための新たな助成金の申請書作成にかかる。
広報活動の充実 (200,000)	会報発行	年 4 回	事務局	会報のレイアウトを変更して見やすい紙面づくりを目指す。2011 年は第 63 号～66 号発行。4 月号(延期)の拡大版など、発送先や同封するチラシなどを検討する。
(200,000)	広報戦略の検討	通年	事務局	ホームページの活性化、フリーペーパー・いんぷお(5 月現在休刊)の連載継続、チラシのリニューアルなどを行う。エチオピアへのコーチ派遣を目玉にマスコミの売り込みも図る。チラシや募金箱の設置をしてくれる場所を再検討する。
営利事業 (100,000)	キャンペーングッズの販売	通年	事務局、支部など	イベントの会場でグッズを販売していく。またコーチ派遣の旅費確保のためにコーヒーの販売に力を入れるが、1 月仕入れ分は岡野前駐在員と上総支部、鳥取支部が引き受けてくれた。
(200,000)	フー太郎のお店オープン	通年	事務局	ホームページ上、あるいはネットでショップをオープンし、エチオピアのグッズやコーヒーなどの販売を通じて、フー太郎の活動に理解を深めてもらう。フー太郎のお店の店長を採用することを検討する。

喜びを与える。夢を与える。力を与える。フー太郎の森基金は、そんな団体を目指します。